2023　年度　授業計画(シラバス)

学　　科	看護学科		科　目　区　分	専門分野	授業の方法	講義
科　目　名	精神看護実践論		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(1)　時間(単位)
対 象 学 年	2学年		学期及び曜時限	後期	教室名	新館2階3階
担 当 教 員	松岡　清子	実務経験とその関連資格	やまと精神医療センターにて看護師として勤務			

《科目目標》

1. 精神看護におけるケアの基本であるコミュニケーション技術を模擬実践およびプロセスレコードを通して習得する
2. 精神の健康障害をもつ対象の回復を促す援助について、問題解決技法を用いて看護過程を展開することができる

《成績評価の方法と基準》

【評価方法】コミュニケーション演習の参加度10%、プロセスレコードおよび看護過程の展開の提出90%
【評価基準】優:80点以上、良:70点以上80点未満、可:60点以上70点未満、不可:60点未満

《使用教材(教科書)及び参考図書》

メディカ出版　ナーシンググラフィカ精神看護学②精神障害と看護の実際

《授業外における学習方法》

授業以外での準備学習の具体的な内容を参照

《履修に当たっての留意点》

他の精神看護学の科目の学習内容を活用して看護過程を展開できる知識、技術を習得する。また、精神看護学概論で学習した人権擁護を復習し、精神障害をもつ対象への態度を習得する。

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	演習形式	授業を通じての到達目標	人間関係構築に関する理論を踏まえて、自己理解他者理解と自己洞察について理解する	資料　P.P	
		各コマにおける授業予定	・ペブロウの人間関係論 ・トラベルビーの人間対人間の看護 ・自己理解、他者理解と自己の傾向の振り返り		
第2回	演習形式	授業を通じての到達目標	診断の補助及び対象の支援のために行われる各種心理検査の目的と実際について理解する	精神障害と看護の実践P124～p132	
		各コマにおける授業予定	・知能検査、発達検査 ・性格検査 ・神経心理学検査		
第3回	演習形式	授業を通じての到達目標	面接援助技法について、主な精神療法の目的と実際について理解する	精神障害と看護の実践P150～p156	
		各コマにおける授業予定	・面接援助技法 ・行動療法、認知行動療法 ・家族療法		
第4回	演習形式	授業を通じての到達目標	統合失調症患者(急性期)への看護過程が展開できる(事例の理解)	統合失調症(急性期)の紙上事例	テキストp39～44 統合失調症の診断と特徴、症状、治療を復習しておく
		各コマにおける授業予定	・事例患者の統合失調症の病態、症状、経過、治療		
第5回	演習形式	授業を通じての到達目標	統合失調症患者(急性期)への看護過程が展開できる(アセスメント)	統合失調症(急性期)の紙上事例 アセスメントシート	テキストP146～167　精神科での援助におけるアセスメントの視点を復習しておく
		各コマにおける授業予定	・精神障害による症状、治療が生活に及ぼす影響 ・精神障害をもつ対象のもつ強み		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	演習形式	授業を通じての到達目標	統合失調症患者(急性期)への看護過程が展開できる(アセスメント)	統合失調症(急性期)の紙上事例 アセスメントシート	アセスメントシートを完成させて講義に臨む
		各コマにおける授業予定	・病態と生活背景を関連付けたアセスメント ・対象の思い、希望を踏まえた看護の方向性		
第7回	演習形式	授業を通じての到達目標	統合失調症患者(急性期)への看護過程が展開できる(看護問題、看護計画)	アセスメントに基づき、看護計画の発表 アセスメントシートと看護計画用紙提出	アセスメントシート、看護計画用紙を完成させて講義に臨む
		各コマにおける授業予定	・看護問題の明確化 ・看護目標 ・看護計画		
第8回	演習形式	授業を通じての到達目標	統合失調症患者(急性期)への看護過程が展開できる(看護の実施)	作成した看護計画用紙	計画に基づき、模擬実践できる準備をして講義に臨む 実施場面のプロセスレコードを記載する
		各コマにおける授業予定	・精神症状に対する関わりの実際 ・日常生活援助の実際		
第9回	演習形式	授業を通じての到達目標	統合失調症患者(急性期)への看護過程が展開できる(看護の実施)	作成看護計画用紙	計画に基づき、模擬実践できる準備をして講義に臨む 実施場面のプロセスレコードを記載する
		各コマにおける授業予定	・服薬に対する関わりの実際 ・リハビリテーションへの関わりの実際		
第10回	演習形式	授業を通じての到達目標	統合失調症患者(急性期)への看護過程が展開できる(評価修正)	看護計画用紙 評価修正を加えた看護計画用紙 プロセスレコード提出(　月　日)	模擬実践を通して看護計画を評価修正する
		各コマにおける授業予定	・援助の評価 ・看護計画の修正		
第11回	演習形式	授業を通じての到達目標	統合失調症患者(慢性期)への看護過程が展開できる(アセスメント)	統合失調症(慢性期)の紙上事例	アセスメントシート、看護計画用紙を完成させて講義に臨む
		各コマにおける授業予定	・精神障害による症状、治療が社会復帰を阻害する要因 ・精神障害をもつ対象のもつ強み　社会生活への望み		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標	統合失調症患者(慢性期)への看護過程が展開できる(看護問題、看護計画)	統合失調症(慢性期)の紙上事例	計画に基づき、模擬実践できる準備をして講義に臨む 実施場面のプロセスレコードを記載する
		各コマにおける授業予定	・服薬継続支援 ・生活技能獲得への援助 ・クライシスプラン ・必要な社会資源とケアマネジメント		
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標	統合失調症患者(慢性期)への看護過程が展開できる(看護の実施)	作成看護計画用紙	計画に基づき、模擬実践できる準備をして講義に臨む 実施場面のプロセスレコードを記載する
		各コマにおける授業予定	・服薬継続に向けての関わりの実際(心理療法) ・生活技能獲得に向けての関わりの実際(SST)		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	統合失調症患者(慢性期)への看護過程が展開できる(看護の実施)	作成看護計画用紙	計画に基づき、模擬実践できる準備をして講義に臨む 実施場面のプロセスレコードを記載する
		各コマにおける授業予定	・クライシスプラン ・社会復帰、地域定着に向けた関わりの実際(ケアマネジメント)		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	統合失調症患者への看護過程が展開できる(評価修正)	看護計画用紙 評価修正を加えた看護計画用紙 プロセスレコード提出	模擬実践を通して看護計画を評価修正する
		各コマにおける授業予定	・援助の評価 ・看護計画の修正		